好奇心を持って積極的に行動することが創作活動の肥やし

渡辺 幸士さん
Watanabe Tatsushi

〔岩下二区〕

わたなべ・たつし / 約20年前から川柳と短歌を詠み、数々の大会で受賞。熊本県文化懇話会から、「第40回熊本県芸術功労者」に選定される。

「やんわりと人に対する風刺やこっけいさを伝えることができたかと思うと、ときには社会の真理を鋭く突くような深い意味がある句ができるなど、川柳は奥が深い」と話すのは、「甲佐川柳会」代表で、「甲佐短歌会」での講師も務める渡辺幸士さん。

自身の創作活動はもちろん、九州各地の大会で選者を務めたり、後進の指導にあたったりするなどの活動が認められ、川柳部門で今年度の「熊本県芸術功労者」を受賞した。

同賞は、満80歳以上で文化活動を継続し、後進の育成にも努めている人が対象。「地道に一生懸命取り組んできたことが評価され、素直にうれしい」と喜びを語る。

「学生のころからずっとやりたいと思っていた川柳と短歌を始めたのは、定年退職してから」と言う渡辺さんは、川柳と短歌を始めて約20年になる。「文芸はスポーツなどと違って、紙と鉛筆さえあればいいので、歳を取ったり体が不自由になったりしてもできる趣味。定年退職後の生きがい作りにはもってこい。また、川柳は話し言葉で詠むので、辞書などが不要で手軽に始められる」と川柳の魅力を語る。

創作活動をするにあたってのアイデアの源は「好奇心」と言う渡辺さん。川柳や短歌のテーマを決めて、一人旅で全国各地を巡ることも。「例えば『夕日』をテーマに選んだときは、日本で1番日の入りが遅い沖縄の与那国島に行き、そこで沈む夕日について詠みました。好奇心を持って積極的に行動することが、創作活動の肥やしになっています」とにっこり。

一方で、最近は文芸をたしなむ人が少なくなってきたと危惧（きぐ）している。「今後は、川柳や短歌などを新しく始める人のお手伝いができれば」と本町の文芸発展への意気込みを語った。

広報 こうさ

2012年（平成24年）10月号
通巻519号

発行・甲佐町　発行人・甲佐町長 奥名克美　編集・企画財政課　住所・〒861-4696 熊本県上益城郡甲佐町大字豊内719番地4　TEL096-234-1154
URL・http://www.town.kosa.kumamoto.jp/　E-mail・klg103@town.kosa.lg.jp　※本紙は再生紙を使用しています。